

令和6(2024)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表(各部)

		I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止
本年度の 重点目標		1 自己有用感・自己指導能力を育む指導 ① 学業指導を通じた日常的な生徒指導の充実 2 文武両道の奨励 ① 部活動における自己ベストの追求を通じた自己理解、自己発見、自己管理の実現及びレジリエンスと自己有用感の向上 ② 国際理解教育の推進と国際交流活動を通じた多様性への理解及び自己理解の深化 ③ 地域理解、地域連携、地域貢献を通じた視野の拡張及び利他性の育成 3 生徒一人ひとりへの支援の充実 ① 教育相談等を含めた個人面談の充実 ② いじめ・不登校生徒の早期発見・早期対応 ③ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用 4 安全・安心な学習環境の提供 ① 交通マナーや規則の遵守 ② 危機管理の徹底(最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く) ③ 報告・連絡・相談の徹底及びその後の確認 5 教職員の心と身体の健全化 ① 管理職を含めた周囲のサポートと計画的な年休取得 ② 健康診断や再受診などによる健康の保持・増進	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善 ① 丁寧でわかる授業の実践 ② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫と改善 ③ 教職員研修の充実 ④ 新学習指導要領の着実な実施	1 生徒一人ひとりの進路意識の向上 ① HR、進路講話等を通じた進路意識の向上 ② 進路選択の拡大 ③ 学びのポートフォリオの活用	1 働き方改革の推進 ① 教職員一人ひとりの意識改革 ② 持続可能な部活動指導の在り方の検討 ③ 業務の進行管理と円滑な引継ぎ ④ ICTの活用による業務の効率化及び情報の共有化 2 教職員の不祥事防止 ① 風通しの良い職場環境の整備 ② 校内研修の充実
	具体目標	○行事を安全に実施する。 ○国際理解教育や地域連携活動等、特色のある学校行事を推進する。 ○安心安全な学習環境の提供をする。	○生徒の適性・能力に応じた学習指導の充実に向けて学習環境を整える。	○キャリア教育に関する学校行事を推進する。	○業務の効率化にむけて業務内容や方法の整備を行う。 ○情報の管理を適正に行う。
	具体方策	1) ゆとりのある行事計画をする。 2) 国際理解教育や地域連携活動等、特色ある学校行事について、各係と協力して進める。 3) 教室の備品等について調査を継続し適切に対応する。	1) 教育課程が生徒の適性や進路希望に即しているか継続して検討する。 2) 研究授業を充実させる。 3) 学習指導部と連携して、採点支援システムの活用に関する校内研修を行う。	1) キャリア教育に関する学校行事について、進路指導部と連携して進める。	1) 各係の業務の進行を把握し、業務の検討・改善を行う。 2) 行事の精選・見直しを行う。 3) 校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。 4) 情報関係の危機管理に関する研修等を実施する。
	段階評価	B	B	B	B
教務部	評価理由	1) 行事の予定が連続していることが少なく、円滑に実施できた。 2) 特色のある行事を効果的に実施できた。大きな効果が得られると思われるものについては来年度も継続したい。 3) 教室等の備品について改善が必要なものがある。(電子黒板の接続不良やスクリーンの劣化、教室のカーテンが遮光になっていない等)	1) 教育課程の見直しが各方面から出ている。 2) 研究授業については計画的に実施できたが、実施する先生方の負担が課題となっている。また、多くの先生方がより参加しやすいよう検討する必要がある。 3) 校内研修については、採点システムの効率的な活用に向けた研修を実施したい。	1) 進路指導部主催の行事について、日程等を検討・工夫した。学びのポートフォリオについては、学校全体での取り組みについて検討が必要である。	1) 働き方改革の推進に向けて各部・各科で協議し、一部改善が図られた。しかし、教員の意識改革も必要であり、改革のスピードが不足している。今後も効率化できそうなものを検討し、進めていく必要がある。 2) 行事の精選・見直しは今後も継続して行う。 3) 校務支援システムの制限の範囲について検討が必要である。 4) 情報関係の危機管理に関する研修等については、職員会議後の時間を利用して実施できた。
学校関係者	段階評価	B B B B A			
学校関係者	評価理由	[Aさん] 教育課程や働き方改革などの課題に対し、系統性を持った検討や組織的な対応が図られているため。 [Cさん] 校務支援システム等のICT関連における適正化や効率化の努力を感じる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 多くの先生方が学校行事に積極的に参加していると思いました。また生徒たちの学習環境の改善ありがとうございます。			
渉外部	具体目標	○学校と家庭、地域との連携をはかり、生徒の社会性を育む教育活動を推進する。 ○保護者間の連携を深め、学年部会、各種専門部会、支部会活動の充実を図る。 ○PTA、同窓会、各種団体との連携を図り、円滑に事業を実施し、さらなる学校発展に寄与する。		○PTA総会での卒業生進路結果報告や各学年保護者会での進路指導情報について、家庭で保護者から生徒へ伝達してもらうことによって、進路実現に関する生徒の意識を高める。	○PTA役員保護者の負担を考え、運営委員会や専門部会を精選し、来校する回数を減らせるよう努力する。 ○PTA生活指導部保護者協力の登校時の交通立哨指導により、自転車通学の生徒の安全確保の一助とする。
	具体方策	1) PTA活動について、役員、学年委員、支部会、部活動理事などが中心となり、学校と家庭の連携を密にして、充実した教育活動を推進する。 2) 同窓会活動について、同窓会理事と連絡を密にしながら、連携を取り、活動を円滑に行えるように努める。		1) PTA総会や学年保護者会への保護者の関心と出席率を高める。 2) 本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。	1) PTA会長・副会長及び執行部役員と綿密にコンタクトをとり、意見を伺い、決定していく。 2) 本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。
	段階評価	B		B	B
	評価理由	1) 学校祭での食品販売、マラソン大会での関門立哨指導、広報誌「みなみ」の編集、11月の校内研修会、PTA運営委員会のそれぞれにおいて、保護者の皆様には多数ご参加、非常によくご協力していただき、充実した内容となった。 2) 同窓会では年2回の理事会と7月の総会を実施し、今まで以上に宇南高を支える大きな存在になってきている。		1) 第2回PTA学年保護者会の出席率は、第3学年が71.4%、第2学年が51.4%、第1学年が53.8%だった。受験が近い第3学年では当然のことながら出席率が良かったが、第2学年と第1学年に関しては、進路に関する意識がまだそこまで高くない生徒が多いのかもしれない。	1) マラソン大会がカンセキスタジアムの開催となったため、昨年度復活させた豚汁の提供をやめるかどうかの判断が難しくかったが、運営委員会で保護者の皆さんに中止という英断を下していただいた。 2) 働き方改革の一環として、保護者の皆様の負担を減らすという意味で、年3回あった朝の交通指導(さわやか活動)を1回に減らし、9月の1回だけ生活指導部の保護者様にご協力いただいた。
学校関係者	段階評価	B B A B A			
学校関係者	評価理由	[Aさん] 様々な環境変化がある中、安全確保を図りつつ、柔軟に対応し、各種行事等を的確に実施したため。 [Cさん] マラソン大会等、新たな取り組みに向けて充実していたと感じる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 先生方のご協力の元に学校イベントが実施できたことに感謝いたします。年々PTA役員の選出が難しく、選出方法について検討が必要かと思えます。			
健康指導部	具体目標	○健康の保持増進を図る。	○気力・体力の向上を図る。	○校舎内外の美化に努め、公共物の愛護の心を養成する。 ○緑化の推進にあたる。	○防災・安全対策を適切に実施する。
	具体方策	1) 保健室運営方針に基づき、保健計画を適正に実施する。 2) 「保健だより」を活用し、保健教育の推進を図る。 3) クラス出席率99%以上を目標とし、教育相談と連携を図りながら保健指導を行う。 4) 講演会や研修を通して健康や危機管理への意識を高めさせる。	1) 様々な場面での体育活動を通し体力の向上を図る。 2) 体育施設の整備・用具の充実を図る。 3) 校内マラソン大会を成功させるよう事前準備を十分に行う。	1) 全職員が清掃監督に当たり清掃美化を徹底する。 2) 校内美化の意識を養う。 3) 花壇整備など、緑化活動を積極的にすすめる。	1) 消防・防災・避難計画により安全・迅速に行動するように努める。 2) 定期的な施設・設備の点検を実施し、早期に修繕をすすめ事故防止に努める。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	1) 自ら考え判断し場に適切な行動を選択できるよう、体調不良の際、「どうしたいのか、どのような行動が適切だと思うのか」を生活面・学習面も踏まえた判断ができるような問いかけ、働きかけができた。 3) 12/5までの保健室利用は、1日平均6.94人であり、R5の6.97人とほぼ同じ結果となっている。先を見越して、自らの体調における自己管理ができるよう、生徒へ働きかけることが今後の課題である。 2) 4) 定期健康診断結果より、視力1.0未満の生徒が62.2%であったことから、スマートフォンやPCとの付き合いかたと日常生活の振り返りを課題とし、学校保健委員会で協議を行う。家庭と連携をした保健指導の充実を図ることができた。AED講習など職員生徒ともに危険意識をもって真剣に取り組んでいた。	1) 普段からの指導により体力の向上が図られた。新体力テストも良好。 2) 昨年同様トレーニング場の点検整備を行っていきたい 3) 校内マラソン大会については昨年度の反省(生徒の安全確保など)を生かし、今年度から県運動公園(カンセキスタジアムなど)で実施した。反省点は少なからずあるものの事前準備や先生方、PTAの協力で成功であったと思われる。来年度以降も同じ場所を実施予定、更によいものにしていきたい。	1) 2) 清掃が徹底されていない箇所あり、ゴミの分別もできていないと言われている。職員も含め校内美化の意識を高める必要がある。 3) 例年なみに花壇作業が行えた。係生徒も積極的に活動してくれていた。	1) 事前準備計画・指導により迅速に行動できていた。毎年のことではあるが、生徒にいかに関心意識を持たせるかが今後も課題。 2) 定期点検の周知があまりできなかったが、修繕も早く事故防止に対応していただいた。
学校関係者	段階評価	B B A B A			
学校関係者	評価理由	[Aさん] 生活のベースとなる自己管理意識の醸成を図りながら、安全を確保した的確な学習、活動の展開が図られたため。 [Cさん] 大きなけがや事故はなく、計画に基づき安定した業務の遂行が非常に評価できる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 保健室の利用が多くて驚いておりますが、それだけ保健室に行きやすい環境なのだと感じました。			

令和6(2024)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表(各部)

	I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止	
学習指導部	具体目標	○自己有用感を育成するための学習環境を提供する。 ○多様な教科外の活動により生徒の興味・関心を広げられるような指導を実践する。	○分かりやすい授業を展開するための研究を行う。 ○生徒の主体的な学習態度育成のために指導方法を工夫する。	○自己の将来につながる課題を見つけて、解決を図る探究的な学習を実践させる。	○業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を増やす。
	具体方策	1) 10分前登校・朝学の奨励により、学習環境を整備するとともに、係活動等より自己有用感を実感できる場を設ける。 2) 人権教育・主権者教育・福祉教育・国際理解教育・地域連携活動・図書活動等を通して学習意欲を喚起する。	1) 有効なICT活用や学習評価に対する工夫を図るなど、新学習指導要領を踏まえた授業展開を目指す。 2) タブレットを活用する課題を提示するなどして、家庭学習・自主学習の習慣化を促す。 3) 成績不振生徒に対しては個別支援を関係教科・学年と連携して行う。	1) 総合的な探究の時間において、自己の将来を見据えたテーマを選択し、探究活動を行うことで進路実現につなげさせる。	1) 関係部と連携して、ICTの活用をスムーズに行えるように環境を整備する。 2) 自動採点システムを導入にあたり、積極的な活用を呼びかけ、業務の効率化を進める。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	1) 10分前登校をして自主的に学習している生徒が多く見られる。その一方で、定着していない生徒もいることから、学習意欲向上に向けた取り組みをさらに検討する必要がある。 2) 各種講演会や様々な活動により生徒の知見を広めることができた。今後も生徒にとって有益な機会をつくることに努めていきたい。また、不登校生徒一人ひとりに対して、しっかり支援を行ってきた。これからも各関係部・学年と連携し、生徒の自己有用感を高める環境づくりに尽力する。	1) ICT活用にはまだまだ工夫の余地がある。教科や学習内容によって有効性が異なるので、教員同士の情報交換・情報共有の機会が必要である。 2) ICT活用により課題の量が増え、負担感を強めている生徒もいるので、教科間の調整を図っていきたい。 3) 学習評価について、生徒が自分自身の学力や位置を把握できるような方法の検討が必要である。指導と評価の一体化が各教科で定着してきているので、校外模試の結果等をフィードバックして学習指導の充実をさらに図っていく。	1) キャリアナビや小論文ナビを活用し、それぞれの進路目標に合った探究活動を行うことができた。(3年) 探究の時間で生徒たちがよく学んでいた。発表に工夫も見られた。(2年) 生徒一人ひとりが熱心に探究活動に取り組んでいるが、進路実現にどのようにつなげていくか、課題が残っている。 年内入試受験者が増加する中、総合型選抜で勝負できるように探究活動に注力してもよいのではないかと。	1) ICT活用により業務内容が増加・複雑化し、多忙感を感じることもある。業務の効率化をさらに図っていきたい。 2) 自動採点システムの導入により、採点時間が非常に短縮された。操作方法に戸惑うことがあり、説明の場があればよかった。
	学校関係者段階評価	B B B B A			
学校関係者評価理由	[Aさん] ICT活用に積極的に取り組むとともに、キャリア探求活動では生徒の熱心な行動につなげるなど、的確に取り組んだため。 [Cさん] ICTの効果的な活用に向けた努力が評価できる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 学習評価で生徒自身の学力や位置を把握できるのは生徒にとって現実を見据えての判断ができるので良いと思います。				
進路指導部	具体目標	○校外の諸活動への参加を促し、生徒の個に合った強みを育成する。 ○生徒がベストの状態での活動できるよう、環境を整える。	○進路実現に向けて、計画的に受験に臨めるよう、指導・支援に努める。 ○新課程での入試に対して、指導体制を構築する。	○生徒が自ら考え進路決定できるよう、きめ細かな指導・支援に努める。 ○生徒自身の適性に基き、学校説明会や講座、その他の諸活動への参加を促す。	○効率よく業務を進めるとともに、体系的な指導体制について検討する。
	具体方策	1) 生徒自身の強みや諸活動での実績について、適切に表現・アピールできるよう指導・支援する。 2) 進路に関する生徒の相談事項について、担任および学年との共有に務める。	1) 生徒に家庭学習時間の記録を習慣化させ、経過を適宜振り返らせる。 2) 新課程入試に関する情報を収集、共有し、受験対策に関する助言が的確にできるよう努める。	1) 進路実現に向けて今何をすべきか考えさせ、計画的に行動できるよう声をかける。 2) 進学、就職に関する情報を収集し、速やかに生徒・保護者に提供できるよう努める。 3) 生徒が学習の記録手帳などを活用して、自身の活動実績を記録する習慣をつける。	1) 業務に関する情報共有を図り、業務が集中しないよう互いに協力し合う。 2) 生徒の出願手続き等の確認について、部内での協力体制を強固にする。
	段階評価	B	B	B	B
	評価理由	1) 生徒への指導、支援は適切に行われた。 2) 教員間での情報共有が不十分である。生徒にはたつきかけるのは担任であり、進路指導部としての担任や学年への支援を検討する必要がある。	1) 家庭学習時間の記録については、継続できるよう取り組みを続けたい。受験に対応できる学力を養成する授業に努めるべきである。 2) 新課程での入試については、生徒への助言が十分だったとは言えない。受験科目や配点など、生徒への説明のための資料が少なかった。	1) 進路講話などで、情報収集や実績記録について、生徒に何をすべきか一層の呼びかけが必要である。 2) 情報提供は、概ね適切にできた。 3) 学習の記録手帳の活用が不十分であり、活動実績の記録が習慣化できていない。	1) ・2) 業務の偏りが見られた。業務の見直しについて、進捗悪く、改善案が通っていない。しかし、生徒にとってマイナスな改革にならないよう意見を集約する必要がある。
	学校関係者段階評価	B B A B A			
学校関係者評価理由	[Aさん] 生徒の主体的な思考、判断に向け、精力的に情報提供や支援に取り組んだため。 [Cさん] 新課程における入試対応を含め、生徒への支援体制の充実を感じる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] 進路実現に向けて今何をすべきか計画的に行動できるような声掛けをして頂きありがとうございます。進学、就職に向けてのロードマップなどがあれば保護者は見たいと思います。				
生徒指導部	具体目標	○自己指導能力を育成し自信と誇りを持つ生徒の育成 ○教育相談活動定着化	○いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備	○生徒に応じた生徒指導諸問題への対処	○生徒の人権を意識した指導方法の徹底
	具体方策	1) 自己指導能力を高め自信と誇りを持つ生徒の育成 ① 凡事徹底と基本的な生活習慣を確立する。 ・制服を正しく着用させ学校への帰属意識を高める。 ・遅刻指導と「チャイムtoチャイム」を徹底する。 ・ルールの遵守やあいさつ、礼儀等本校の良さ伝統を定着させる。 ② 自己管理能力を育成する。 ・自ら交通法規を遵守する態度を養い、苦情を減少させるとともに交通事故の減少傾向を維持する。 ・貴重品管理の指導を継続し、盗難を未然に防止する。 ・整理整頓を心掛けさせ、遺失物を減少させる。 2) 教育相談活動などの一層の活性化 ① SCを活用した特別支援体制を定着させる。 ② 各クラスの「生徒の情報調査」から、不登校生徒などの早期発見や早期対応に努める。	1) いじめアンケートとクラスの融和 ① 改訂「いじめ防止基本方針行動計画」を職員間で共有、徹底する。 ② いじめ情報共有シートの周知を行い効果的に活用する。 ③ 学業指導を通じ、学習に取り組むクラスの集団意識の高揚を図る。 2) 規範意識や人権意識の高揚、自己有用感の育成 ・日々の生活において、一般社会に通用する規範意識や礼儀作法・マナーなどを身につけさせる。	1) 生徒に応じた生徒指導諸問題への対処 ① 各係の円滑な職務の遂行と、問題発生時に迅速かつ柔軟に対応できる協力体制を構築する。 ② 日常から各部・各学年とのコミュニケーションを行い、指導を通じて自己理解の深化につながるよう生徒指導諸問題に対処する。	1) 日々の生徒への指導に際して、生徒の状況や人権などに配慮した言動等となるよう注意する。
	段階評価	B	B	A	A
	評価理由	1) 制服の正しい着用やチャイムtoチャイムの徹底など基本的な生活習慣については、良く守れている生徒とそうでない生徒とで二極化してきている。外部からの苦情が減少していないことから、交通ルールの遵守等についても主体的にとらえ行動するなど、自己指導能力を高められるよう指導していきたい。 2) 不登校生徒についての早期対応に努めたが、欠席遅刻数が例年より増加する傾向が続いた。次年度は不登校生徒への組織的な対応について検討していきたい。	1) いじめアンケートについては、毎月実施できいじめの早期発見と予防につなげることができた。いじめの疑いが2件ほど発生したが、いじめ対策委員会を早期に開催し、迅速・適切に対応することができた。一方、アンケートをデータ回収するうえで、全員の回収に時間を要するなど課題が残った。 2) 校外での学校行事(体育的行事や修学旅行等)でも礼儀をわきまえ、外部の方とも概ね良好なコミュニケーションがとれた。	1) 今年度も数件、問題行動が発生したが、迅速に生徒指導委員会を開催し、適切な指導を行うことができた。また、指導する生徒に対しても学年と連携し、生徒の特徴などに応じた指導ができた。	1) 生徒に対する厳しい指導は大切だが、その人権を侵害したり人格を否定するなどの言動は許されない、という意識を教職員全体が共有して生徒の指導にあたるよう努める。
	学校関係者段階評価	A A B B A			
学校関係者評価理由	[Aさん] 基本的な生活習慣の確立に向け継続的に取り組むとともに、いじめや不登校への対応にあたり、迅速な取り組みが図られたことや、問題行動への組織的な対応、適切な指導がなされたため [Bさん] 迅速な委員会を招集し指導対応できている。該当生徒の学年だけでなく教職員全体が共有して指導にあたるよう努めていることが評価できる。 [Cさん] 規律を重んじた生徒指導の充実の様子がよくわかる。また、不登校生徒への組織的な対応についても努力を感じる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] いじめアンケートで迅速適切に対応して頂きありがとうございます。				

令和6(2024)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表(各部)

	I 安全・安心な魅力ある学校づくり	II 確かな学力の育成	III 進路実現につながるキャリア教育の充実	IV 働き方改革の推進と不祥事防止		
特 活 部	具体目標	○部活動の一層の充実を図る。 ○多くの行事を安全安心に実施する危機管理の徹底と学校行事の変更に対する臨機応変な対応を図る。 ○生徒会活動・部活動を安全に実施する。	○国際理解教育・インターアクト、地域連携、福祉教育との連携を図る。 ○部活動指導の資質の向上、共通理解を図る。	○生徒会活動の充実を図る。 ○ホームルーム活動の充実を図る。	○生徒会活動・部活動の効率化を図る。 ○部活動の不祥事防止の徹底を図る。	
	具体方策	1) 部活動への参加を奨励し、個々の特性・能力の伸長を図る。 2) 学習状況、通学状況、健康管理等、関係職員との連携を密にし、個々の生徒への共通理解の深化を図る。 3) 天候、感染症等の状況での最悪の事態を想定し、危機管理の徹底、行事の変更等、臨機応変に対応する。 4) 危機管理体制を確立し、未然事故防止、緊急時対応の周知を徹底する。	1) 学習指導部の国際理解教育・インターアクト係、地域連携・福祉教育係と生徒会が連携を図るように留意する。 2) ボランティア活動や地域との交流活動、インターアクト活動に積極的に参加するよう指導する。 3) 本校と国際社会、地域社会の懸け橋となるインターアクト活動を実践し、国内外の文化に触れる機会を増やし、グローバルな人材を育成する。 4) 部活動顧問会議等で、校内研修を充実させ、部活動においての共通理解を図る。 5) 外部からの講習会を活用し、部活動指導者の資質の向上を目指す。	1) 生徒会役員をはじめホームルーム役員等のリーダーシップをとれる生徒の育成を図る。 2) 諸行事では生徒の自主的・創造的活動の活性化を目指し、積極的に緻密な企画・運営がなされるよう指導する。 3) 礼儀正しい人間を育成する。単に技能だけを高めるのではなく、お互い協力し助け合う等、心豊かな生徒を育てる。 4) 十分な時間を確保し、綿密な年間計画、事前準備等により円滑な運営が行われるよう努める。 5) 学校生活の基盤としての場であるので、クラス内の融和を図るとともに、自主的・自律的な態度を育てる。	1) 生徒会活動において、効率化を図るために、オンラインツール等を活用したり、省略できる内容を厳選し、活動の効率化を目指す。 2) 部活動において、部活動指導員等の活用で、活動時間や練習内容などの効率化を図る。 3) 部活動において、生徒、保護者対応等、複数顧問で対応し組織で動く。	
	段階評価	A	B	A	B	
	評価理由	1) 部活動への積極的な参加とともに、活躍が目立った。 2) 多くの教職員で共通理解が図ることができたが、欠席や遅刻が多く、なかなか改善されない。 3) 特に、熱中症対策や雷等の天候の変化に対して、学校全体で組織的に対応できた。 4) 部活動、行事の際に、危機管理体制を組織的に運営できた。	1) インターアクトやボランティア等、活動内容がもう少し見えてほしい。 2) 地域社会の中での活動があまり活発でない。 3) 行事等で、国際社会、地域社会に触れる機会が増えたい。 4) 部活動顧問会議で、各部活動の意見交換等をもっとすべきである。 5) 今年度は、TISの協力で女性アスリート講習会を実施でき、資質の向上につながった。	1) 特に、生徒会役員の活動が活発であった。生徒会アシスタントの位置づけを見直すべきである。 2) 生徒会の活動が、主体的かつ創造豊かに行うことができている。 3) 生徒への支援は、手厚く行っている先生方が多いため、礼儀正しく心豊かな生徒の育成につながっている。 4) 1学期に行事が詰めこみすぎた印象を受け、緻密な計画に欠けているため、大きな行事の際は、もっとしっかりとした打合せが必要である。 5) 教員の働きかけに真剣に考える生徒を増やしていきたい。	1) ICTを活用した効率化をもっと目指すべき、壮行会は少々さびしく、やり方を見直すといい。 2) 部活動指導のあり方は、見直すべき課題が多い。 3) 部活動において、生徒、保護者対応等に、複数顧問で組織的に動くことができた。	
	学校関係者 段階評価	A A A B A				
学校関係者 評価理由	[Aさん] 部活動、生徒会活動等において、安全確保を図りながら、的確で献身的な支援を行うことにより、生徒の活躍や人間形成につながったため。 [Bさん] 生徒会役員の活動をささえら部活動で励む生徒の夢の実現のサポートしっかりと伝える姿勢が読める。評価Aを2つとしている点も良いと思った。 [Cさん] 生徒中心の活動の充実に注力しており、学校全体の勢いを感じる。先生方のきめ細やかなサポートの充実を感じる。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] インターアクトやボランティアなどの活動を生徒や保護者に伝えて頂きたい。					
事 務 部	具体目標	○職員心と身体の健全化を図るため、計画的な年休取得に務める。			○職員一人ひとりの意識改革と業務の進行管理を適切に行い、風通しのよい職場環境の整備に努める。	
	具体方策	1) 年間年休取得日数を15日以上を目標とする。			1) メリハリのある業務遂行を心がけるとともに、教職員からの要望等に対しては、適時適切な対応に務める。	
	段階評価	B			B	
	評価理由	1) 職員によって、ばらつきがある。 2) 休暇計画を作成するよう指導しても、業務が多忙な時期もあり、なかなか、遂行されない。				1) 業務の進行管理においては、一部、遅れ気味になるものもあり、事務室職員でお互いフォローしなければならない場面もあった。 2) 教職員からの修繕要望等に関しては、可能な限り、即時に対応できた。
	学校関係者 段階評価	B B B B A				
学校関係者 評価理由	[Aさん] 環境変化の中、働き方改革などの課題にあたり、意見を吸い上げながら、組織的な対応を行っているため [Cさん] 安定した事務処理の遂行ができている。 [Dさん] 具体方策に対して概ね実施できている。 [Eさん] ご多忙の中、業務改善の実施ありがとうございます。年次休暇の目標取得頑張ってください。					

1. 段階評価：学校関係者による段階評価も含め、A・B・C・Dの4段階評価
2. 評価基準：【A・・・十分満足できる B・・・概ね満足できる C・・・努力を要する D・・・一層努力を要する】
3. 評価理由は、目標達成に向けた取組の状況や生徒の変容の状況などを視点として記述する。